



高尾山の「名物」の一つが「ムササビ」である。薬王院の山内には巨木が多い。写真右側の白い木には、多くのうろ(穴)があつて、ムササビの巣になっているらしい。もちろん夜にならないと滑空は見られない。せめて顔を出したら見ようと思い、露木先生のカールツァイスを借りたが、鼻先すら見えなかった。



私は以前、高尾山遠足のあとに「とぶムササビ遊び」を子どもたちとしたことがある。型紙を切り取って色をつけ、スズランテープの尾をつけて、適当な角度に折り目をつけると、手から離すだけで、おもしろいように滑空する。(※2ページ目に型紙があります)



薬王院の本殿前には「ボダイジュ」(菩提樹)の立派な木がある。「釈迦が悟りを得た」「シューベルトの冬の旅第五曲」で有名な木だが、いずれも日本産のものとは別種のボダイジュである。



露木先生は、ボダイジュの根元で何かを盛んに探している。そして見つけたのがこれだ。「葉についた果実」のように見えるが、実はこの写真のものが全体が「果実」で、下についている

2粒が種子である。これでまるで竹とんぼのように、くるくる回りながら種子を拡散するので。



ケヤキも同じように種子の拡散を行う。ケヤキの場合はもっと変わっていて、枝先の数枚の葉が種子と一緒に落ちて、やはりくるくる回りながら

ある程度遠くまで飛んでいく。ケヤキが「どうせ散るなら、一緒に種子も運んでしましましょう」という「ついでに拡散」の発想なのに対し、ボダイジュは専用の「翼果」を持つ「確実に拡散」の発想である。ちなみに「水戸黄門」は「助さん、拡散」である。

【「とぶムササビあそび」の型紙】

9才画用紙半裁に印刷するのが適している。

または、A4ケント紙でも可。

